

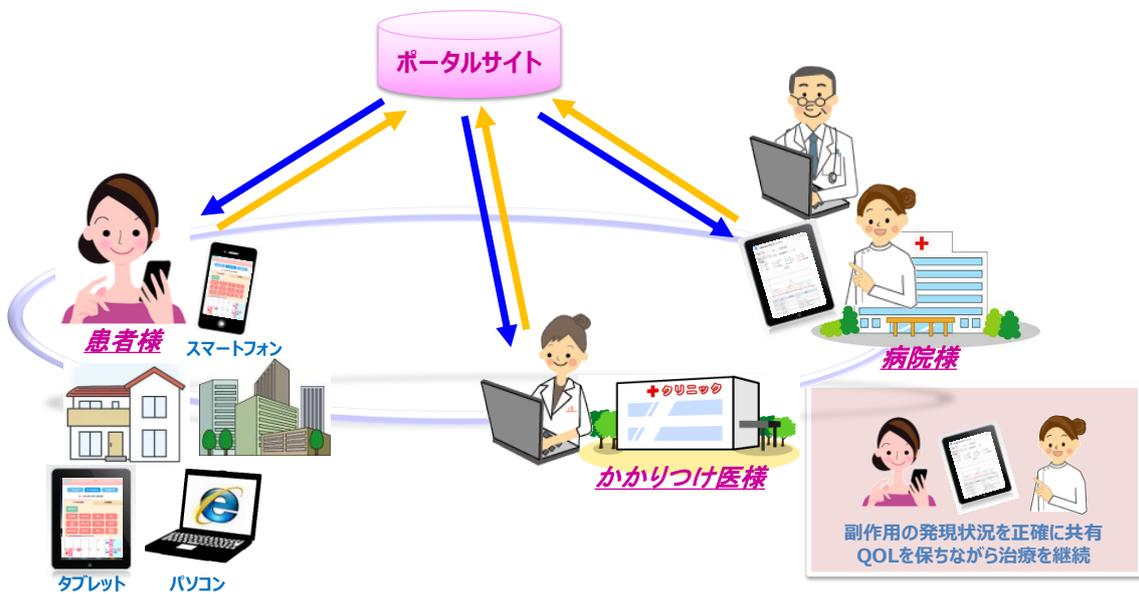
昭和大学病院プレストセンターでは、患者さんが QOL (quality of life) を保ちながら薬物治療を続けていただくことをめざした「患者サポートシステム」の開発に取り組んでいます。

乳がんの薬物療法は薬剤の進歩により外来治療にシフトしています。患者さんの負担は入院よりも少ないですが、副作用の大半を院外で経験することになり不安にもつながっています。とくに副作用の管理と対応は患者さんの考え方も様々で、医療者とのよりスムーズな意思疎通が課題になっています。

本システムは、インターネットを利用して、患者さんがスマートフォンやタブレット、パソコンなどから副作用の発現状況を簡単に記録することができ、医療者側でも一目で把握できるものをめざしています。

詳細はがんサポート 2014 年 10 月号に掲載されました下記記事をご参照ください。

[「IT 機器を使った副作用サポートシステム 乳がん患者さんが自宅で入力 医療者は病院でチェック」](#)



患者様画面

病院様画面

共有

入力された症状、体調メモ を時系列のグラフと表で確認